

ゆうかり放送委員会提供 ゆうかりに乾杯

第137回放送の概要（2018年9月29日放送）

パーソナリティ

たろう

（佃 由晃）

なか

（中嶋邦弘）

かりん

（妹尾優香）



ミキサー

門ちゃん

（門田成延）

会計

小山俊則

相談役

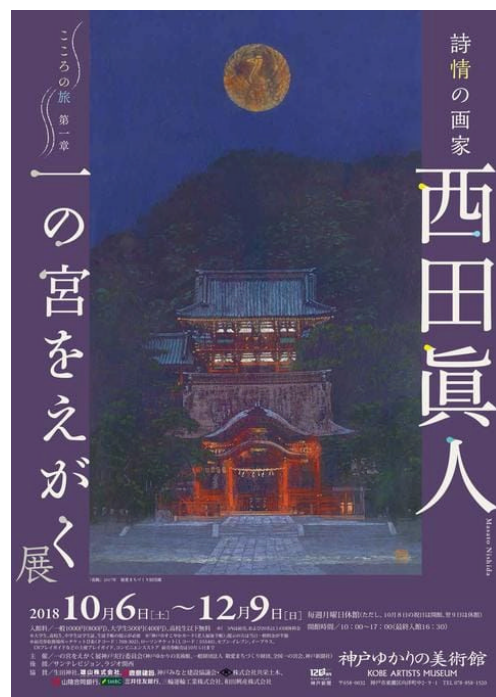
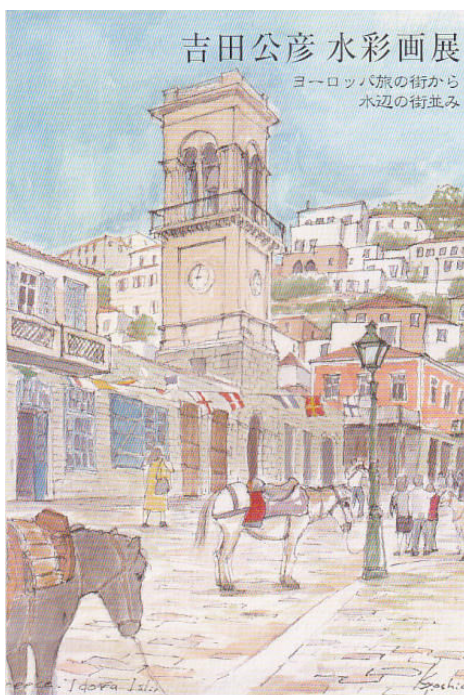
わだかん

（和田幹司）

1. オープニング

今年出演頂いたゲストの個展開催について；

第132回ゲスト、吉田公彦さん（57陽会）の第18回水彩画展が、10月16日～10月21日までダイヤモンドギャラリーにおいて、第135回ゲスト、西田真人さん（58陽会）の「特別展 詩情の画家 西田真人ーノ宮をえがく展 こころの旅第一章」が、10月6日～12月9日まで神戸ゆかりの美術館において開催されます。



2. ゲストコーナー (1) 奈良教育大学4回生 書道教育専修 繁本香菜さん (102陽会)

二葉小学校(駒ヶ林小学校)、駒ヶ林中学校卒業。書初め大会で入賞したのがきっかけで、小学2年生から習字教室に通い、高校書道部に入部することで、本格的な芸術書道を学びたいと思い、奈良教育大学書道科に進んだ。

高校では書道部に所属。部活動では、個人としての作品作りとして、臨書(過去の能書家の真似をして書き方を学びとる)、及び書道パフォーマンスでは音楽に合わせ、書道やダンスの練習をしていた。週に2回の部活だが、昼練習、放課後練習と毎日練習していた。写経は好きで心を落ち着かせるために今も続けている。般若心経の専門の用紙と専門の筆を使っている。

作品を発表する場合は、高校では顧問の先生紹介の書道展(全日本学書展:日本書芸術振興団の主催)に出品していた。しかし受賞した作品のみ展示されるので、書道部全員の展示は学校の校内文化祭や総合文化祭であった。書道部は殆どの高校にあり、兵庫高校では書道パフォーマンスが無かったので、顧問の先生にやりたいと提案した。小学5年生の時から憧れていた。最近新長田で開催の高校生鉄人化まつりで書道パフォーマンスを披露しており、人数が少ない時は須磨東高校とコラボした。伊川谷北高校も書道パフォーマンスをしている。



高校3年 文化祭

顧問の古山優子先生(70陽会)に出会い、熱心でいつも生徒と一緒に部活での事を喜び、女性としても尊敬する憧れる先生だった。先生に出会って将来の夢が確定し、書道教師の道を選ぶ事にした。

大学での必須科目は、書道の実技、理論、歴史を学び、教育大学のため子供理解、発達心理、教育心理などを学んでいる。漢字、行書、楷書、仮名の時間など細かく分類されている。

卒業後を考えて取得した資格は、高校の書道、中学の国語、高校の国語、司書教諭(学校図書館員に教員として雇用、授業も兼務出来る)、そして博物館学芸員の資格は、絵画が好きなのと、書道に係る資料の保存技術、古文書の取り扱いが必須になるため、それらを実習で学ぶために必要であった。

書道は中国発祥で、各課程において中国の歴史を学びながら行ってきた。漢字を学ぶ上で一番好きな書家は空海(三筆)で、風信帖(ふうしんじょう:空海が最澄に宛てた書状)、灌頂歴名(かんじょうれきめい:京都高尾山寺で三回にわたり灌頂を授けた者の名前を列举したもの)を残している。空海は過去の上手な書家の技法を学びとって、自分の書を確立する課程をされている。生涯に亘って書を学ぶ私たちにとっても大切な姿勢であり、空海の姿勢を学んでいる。三筆は空海、嵯峨天皇、橘逸勢、三蹟は小野道風、藤原佐理、藤原行成。

中国人書家でよく勉強した人は、東晋時代の王羲之の「蘭亭序」である。初見で美しいと思った。字形のバランス(黄金比)、強弱の付け方など書の基礎が素晴らしかった。空海他では、良寛についても初めて見た時は魅力がわからなかったが、見るたびに余白の美を感じ、作品の中の空間のとり方など今後の

創作活動の中で学ぶべきものと思っている。

大学の授業の中で特に興味を持って取り組んでいるのは、**発達障碍**についてある。「書道は心が落ち着く」「精神統一だ」と言われるが、全ての人に常にあてはまるか疑問に思っていた。例えば多動症を持った生徒に強引に書け、落ちつけと言っても生徒の負担になるだけで書道のニーズはない。全ての人に書道を押し付けないために、それぞれの人の特性を学んで生徒に提供する書道を確立したいと思い勉強している。今卒論で研究しているところ。障碍の有無においても、全ての人にとっての書道はどのような必要性があるのかを考え、日常の葉書をきれいに書きたい人、パフォーマンスをしたい人など、将来生徒に指導する時に個々のニーズに応じて提供出来るよう、全ての分野をしっかりと鍛錬していきたい。レタリング(グラフィックデザインにおける文字の書体デザイン及びその作業)においては、書道の基礎知識が役立つので今後レタリング検定を受けたいと思っている。

書道は最初先人の真似をするところから始まるが、最後は自分のオリジナルの書を確立するのが目標である。まだ22年間の人生では習得しきれないところがたくさんあり、上手な先生、先人の書家から学んでいるところです。

3. ミュージック

サックス奏者 米澤美玖さんのアルバム 「Landscape」 より
「Scorpion Rocks」。



4. ゲストコーナー (2)

今年兵庫高校が「**2018 第 11 回書道パフォーマンス甲子園**」で3位に入賞した。

<https://www.youtube.com/watch?v=RRTxk5NEeSs>

全体の統一感が良かった。生徒全員のパフォーマンスをやりたいという意思を感じた。見せるパフォーマンスをするのは、顧問の先生の尽力が凄く大変。高校生の時はダンスが出来ない生徒のためにダンス部に連絡をとったり、企画を考えたり音楽の選択を一緒に考えてくださった。2学年下の後輩たちで書道パフォーマンスをしたいと何人も入部してくれたため、部員が増えた。それまでは、運動部の方々に助っ人として書道パフォーマンスの舞台に立っていただくくらい、部員は少なかった。大学には書道パフォーマンスが無いので、大学の後輩、他大学生、高校時代の後輩、全国の希望者を集めてチームを作っている最中。今年8月兵庫駅南公園で開催したこどもフェスタ二において2人で披露した。次回は1月6日ユースステーション兵庫で予定している。

書道の日本の現状は、進学校では入試科目に関係ないので、高校の新課程が出来た途端に授業数が削減され、書道教員の正規雇用の削減、募集停止がおきている。小中学校では書道の授業をしたことになっているが実際はあまり行われておらず、授業数が少ない。小中学校は一応は全員が対象で、高校は芸術分野は美術、音楽、書道の選択制である。美術など評価は難しいが、書道もグレーな所があり、展覧会では審

査員の先生の感性で評価される。しかし書写検定（毛筆・硬筆検定）では字形のバランス、墨の色合いなど評価観点があり、得点化されている。

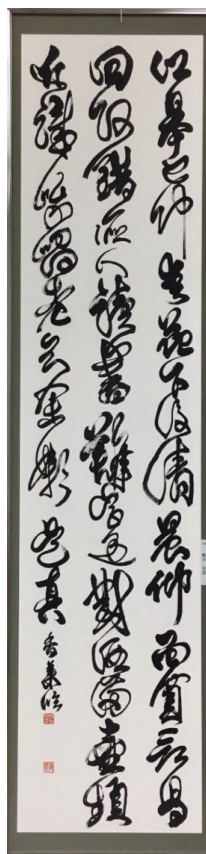
華道、茶道は家元制度があるが、書道は流派、会派によって分かれ、独立している人もいる。流派、会派は数えきれないほどあり、流派の交流は認めあっている場合もあるが、繁本さんの立場からは対立しているという印象を強く持っている。芸術は主張は大事であるが、自分と違うスタイルをけなす必要はないと思っている。今その現状を変えていく取り組みをしている。

書道の展覧会で一番大きいのは日展で、日展には色んな流派から出展しているが、読売書法会など大きな流派は入賞も多い。日展の審査員になりたい方とそうでない方が半々。決まった先生について学びとり、どんどん上に上がるシステムになっている。それとは反対に自分独自の書を確立したい人は、あえて所属せず独立法人、個人として活動している。繁本さんはオリジナルを求め、書道は大切であるが、書道を通して人の居場所作りをしたいという夢があり、先生に学びながらも独自の書法を確立したいと思っている。

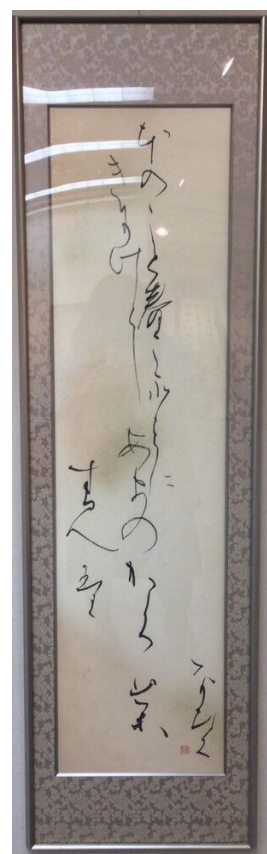
ここで繁本さんの作品を紹介します。



①



②



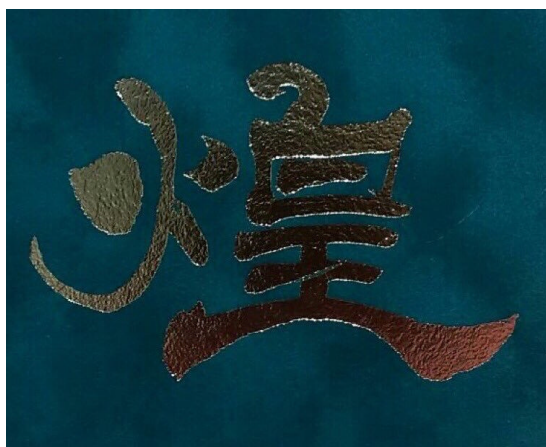
③

- ①「香菜臨」は、作品全体は繁本香菜さんが過去の能書家の作品をまねて書いたものという意味。
②は明清時代の傅山の作品をまねて書いたもの。曲線が多いところに惹かれたもので大学で初めて学んだ。
③は仮名作品で、新古今和歌集のもので書体は繁本さんの創作である。石で作った落款印（オリジナルの

名前の入った印)を押している。

「ほのぼのと春こそ空に来にけらし天の香具山霞たなびく」

雅号は検討中で今は「香菜」である。雅号は師匠からいただく場合と、自分で考える場合がある。



④

④は102陽会卒業アルバムの表紙を飾った「煌（きらめく）」を隷書体で書いたもの。



⑤

⑤は大政奉還記念のペットボトルの文字と箱にも採用された。2017年京都市主催の大政奉還プロジェクトのお茶会社の社長からの依頼で書いたもの。ボランティアサークルに所属していた時、ひまわりオイルの搾油機を貸してくれたのが縁でその社長からの依頼で書くことになった。



⑤

大学で取り組んだボランティアは、筆耕（表彰状を書く）、障害者のキャンプの付き添い、小学生の野外活動の付き添いボランティアなど経験した。多角的視点を持って物事を考えたいと思っており、ボランティアは様々な立場の人と出会えると思い活動した。

卒業後の進路は、大阪の私立中高一貫校の書道教諭が内定し、年度によっては国語や司書の先生などローテーションはあると思っている。教育実習は兵庫中学と伊川谷北高校であった。学生時代に書道パフォーマンスで負けた伊川谷北高校は、書道部の生徒の主体性が強かった。

生徒を教える時に目指す教師像は、「人の居場所を作る教員」になりたいと思っている。この先生には夢を語れる、居心地がいい、そして生徒が自信を持てるような話しかけ方の出来る先生になるのを目標にしている。そのように考えるのは、子供の頃繁本さんは自尊心が無く、一番にならないと意味が無いと思っていたので、ちょっとでも偏差値が下がると自分はダメだと落ち込むことが多かった。中学、高校、大学時代の友人たちが、自分を褒めることで自信が持てるよと定期的に話しかけてくれた結果、今は周りからうっとうしいと思われるくらい自信満々な状態になった。

伝統文化の継承については、単に字を書くことだけでなく、**文房四宝**（ぶんぼうしほう：筆、硯、紙、墨）を大切に出来てこそ真の書道家であると考えている。筆、道具を大切にすることは子供の頃からお世話になっていた習字の先生がそのようにされていたことで、筆などを1回ずつ洗い、硯を磨くなど道具を大切にしてから書くことに取り組むことを、生徒に伝えていきたいと思っている。

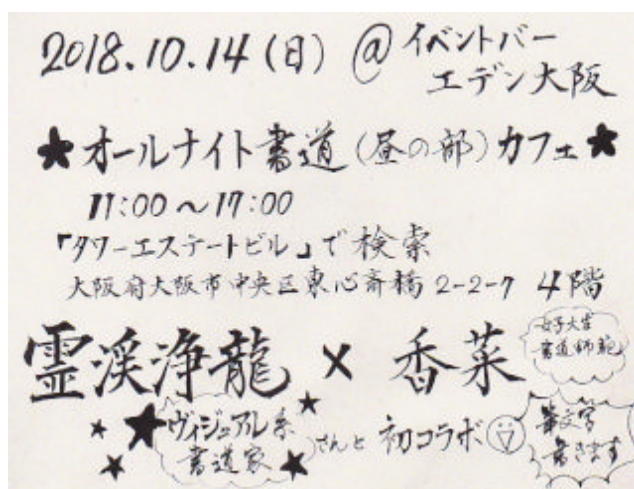
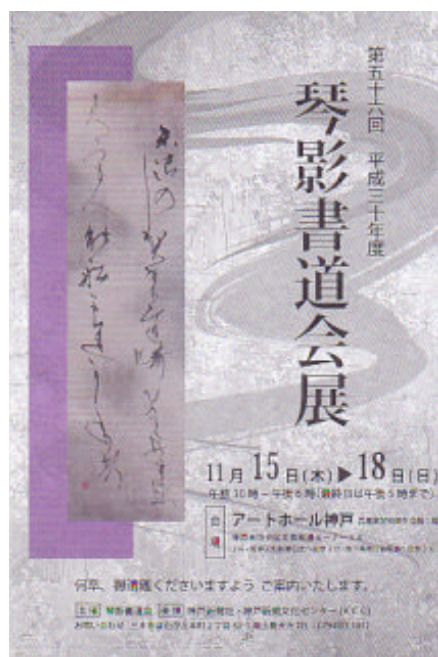
将来書道教育施設を起業したいと思っており、そのため華道、茶道も勉強しているが、書道の教育だけをするのではなく、大切な資料を保管する書の博物館と隣接した書道教室、ユースステーション兵庫がしているような居場所作り、母子シェルター、児童養護施設のような心が切羽詰まった時に身の安全、心の安全が確保できる人々の居場所になれる書道教室を目標にしている。このように考えるのは、教育大学に入学したことで様々な立場の子どもと関わり、繁本さん自身習字教室の先生が居心地の良い空間を作ってくれていたのも、辛いことがあると次の金曜日の習字のお稽古が待ち遠しくなり、いつもお稽古の授業時間ぎりぎりまで居残りした。先生の誉め言葉のお陰で自己肯定感の上がる教室だった。家族に話せないことも話せる信頼関係のある先生だった。現在は華道の先生の所で書道教室をしている。その先生と同じように生徒に居場所を提供出来る先生になりたいと考えている。

今開いている書道教室は、華道教室の先生が華道教室の後、書道教室をしたらどうかと提案があったことから実現した。現時点での生徒は大学生・大学院生と社会人の方々である。

5. 地域瓦版

- ①11月15日～18日、アートホール神戸にて「琴影書道会展」にて、繁本香菜さんも2作品を展示。
- ②10月14日、イベントバー エデン大阪にて、オールナイト書道カフェを開催します。

Twitter「エデン大阪」を検索してください。



書道について繁本さんが好きなのは、墨が紙に浸みこむ瞬間の他に、自分の意思が表現出来るところで、その文字は1回限りしか書けないのでそれが書道の魅力と感じている。

放送音声は、FMYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。

<https://tcc117.jp/fmy/?cat=51>

[http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/](http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/)